

三字経（其の一）

（訳 仁平重光）

人之初 性本善 性相近 习相远

人の性は元初、善にある。生を得てから後の環境や習慣の違いが、人に差をつけていく。

苟不教 性乃迁 教之道 贵以专

もし教育が不在であると、その善性は変遷する。故に教育は専念して行わなければならないし、それこそが貴い。

昔孟母 择邻处 子不学 断机杼

その昔、孟子の母は、子供のために良い環境を求めて引っ越しを重ねた。孟子が勉強を嫌がったとき、母は機織りの梭(こ)を折って、学ばないということになる（途中でだめになってしまう）と言って、きつく戒めた。

竇燕山 有义方 教五子 名俱扬

竇燕山(とうえんざん)には人を善い道に導く力があり、五人の子はいずれもそれぞれの道で名を上げた。

※竇燕山：五代時代（907-960）末の人

养不教 父之过 教不严 师之惰

子を養っても教育が不在なのは親の過失である。教えても教育がいいかげんなのは師の怠惰である。

子不学 非所宜 幼不学老何为

幼少時に学ばない事ははなはだよくない。幼きに学ばずばいかにして人生を過ごすことができるか、心もとないのである。

玉不琢 不成器 人不学 不知义

玉(ぎょく)は磨かなければ、どんなにいいものでも器にならない。人は学ばなければ正しい道理を見失い、立派な人間にはなれない。

为人子 方少时 亲师友 习礼仪

人は正に幼少時より師、友と親しみ、礼儀を習わなければならない。

香九龄 能温席 孝于亲 所当执

黄香は九才の時より親のために席を温めた。親への孝は当然行わなければならないことである。

※黄香：後漢時代（25-220）の人

融四岁 能让梨 弟于长 宜先知

孔融は四才にして梨を食す時、小さなものを先に取り、長兄に譲ることで兄への敬愛を示したと言われている。年長者に従順であることはまず知らねばならないことである。

※孔融（153-208）：後漢の学者

首孝弟 次见闻 知某数 识某文

まず学ぶべきは親への孝、年上の者に従うことであり、それから見聞を広め、次に知識を得ることが大事である。

一而十 十而百 百而千 千而万

まず一があって十になる。同様に十が百に、百が千に、千が万となる。一を知るべきで、基本が大事である。

三才者 天地人 三光者 日月星

三才とは天、地、人、三光とは日、月、星のことで、三才と三光は宇宙を組成する。

三纲者 君臣义 父子亲 夫妇顺

三綱とは君臣の義、父子の愛、夫婦和睦のことを言う。

曰春夏 曰秋冬 此四时 运不穷

春、夏、秋、冬の四時の順は変わらず、何度でも巡ってくる。これは自然の摂理である。

曰南北 曰西东 此四方 应乎中

南、北、西、東、この四方は、中央に対して応じている。

曰水火 木金土 此五行 本乎数

水、火、木、金、土という五行は、数に基づいている。

※五行：中国古代の世界観で、万物を構成すると考えられていた五つの元素のこと。

曰江河 曰淮济 此四渎 水之纪

江（長江）、河（黄河）、淮（淮水）、济（济水）をもって四渎（しとく）と称す。我が国の最も重要な河川である。

曰岱华 嵩恆衡 此五岳 山之名

岱（泰山）、華（華山）、嵩（嵩山）、恒（恒山）、衡（衡山）をもって中国五岳と称す。

曰仁义 礼智信 此五常 不容紊

仁、義、礼、智、信は「五常」と称され、人間社会の守るべき基本である。乱れることがあってはならない。

地所生 有草木 此植物 遍水陆

大地は草木の生ずるところであり、草木はこの地球に遍在する。

有虫鱼 有鸟兽 此动物 能飞走

この地球に存在する昆虫、魚、鳥、獣は、この大地を飛び走りまわる。

稻粱菽 麦黍稷 此六谷 人所食

稻、粟（あわ）、豆、麦、黍（きび）、稗（ひえ）を六穀と称し、人は食する。人類の生きる基である。

马牛羊 鸡犬豕 此六畜 人所饲

人は馬、牛、羊、にわとり、犬、豚の六種の家畜を飼う。これらの家畜は益が多い。

曰喜怒 曰哀惧 爱恶欲 七情具

人が持つ共通の感情として、喜び、怒り、哀しみ、恐れ、愛、憎悪、および欲の七つがある。

.....

『三字経』は南宗時代の王応麟（1223-1296）が著したと言われ、後に何度も改訂されて今に至る漢字習得用の教本です。漢字習得に役立つだけでなく、道徳的な内容や社会生活の知恵、その時々科学知識なども盛り込まれていることから、現在でも中国や台湾の学校や家庭教育用の教材として人気が高く、永遠のベストセラーと言われています。

本訳には『三字経』（台南，世一文化事業股份有限公司，台南，2003）を使用。原文は繁体字ですが、簡体字に書き直しました。